

飯山高校

桂雪会報

第4号

発行日
令和3年2月18日
発行人
長野県飯山高等学校
桂雪会長 宮本衡司
編集責任者 渡辺藤夫
印刷所 (株)足立印刷所



飯山高校の輝かしい発展を桂雪会は応援します

飯山高等学校同窓会 桂雪会 会長 宮本 衡司(飯山北・S45年卒)

新しい年「令和3年」を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。桂雪会員の皆様には、日頃から桂雪会の活動に対しご支援とご協力を賜り心からお礼申し上げます。

私は昨年の5月に、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年度の定期総会の替わりに開催された代議員会で第三代目の会長に選出されました宮本衡司であります。初代森会長(H28・29年度)、二代目関会長(H30・R1年度)を引き継ぎ、桂雪会の発展のため尽力して参る所存でございますので、皆様の更なるご支援をお願い申し上げます。

With コロナ時代への対応

思い返せば、昨年の3月頃から、学校は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、生徒、職員のみでの卒業式や休校の措置がとられました。新年度に入っても入学式は職員・入学生・保護者のみで行われ、同窓会として卒業や入学のお祝いの日に立ち会うことはできませんでした。

また、4月10日から2か月近くに及ぶ休

校期間があり、再開は6月1日からでした。高体連の大会や甲子園大会、吹奏楽コンクールなど次々と中止となりました。学校では感染拡大防止のため、マスク着用や手洗い・うがい、消毒やソーシャルディスタンスを日々励行し、講演会や全校集会、文化祭やクラスマッチ、研修旅行などの行事を中止したり、学習のオンライン・リモート対応を余儀なくされました。これを機に、校内のWith環境を整えられたいことも伺っております。

年が明け、新年になっても、これまで以上の感染拡大をもたらす第3波に見舞われ、全国で医療崩壊に及んでいるとも報じられています。まさに、コロナに始まり、コロナに終わろうとしている令和2年度であり、今後はWithコロナの時代に変容していくといわれています。

間もなく始まる大学受験に向かう3年生は、年度初めの休校や様々な大会やコンクールの中止、リモート文化祭など多くの壁を乗り越えてきました。今年から始まる共通テストへの対応や、首都圏や大都市での大学受験の際の感染不安など様々な心配

を抱えての受験となります。保護者の皆さんも気が気ではないと思います。しかし、だからこそ、これからのWithコロナ時代を生き抜く力強さと思考力を身につけ、皆さんがこれからの時代を牽引していくのだと期待もしたいと思えます。進路が決まるまで、様々な困難を乗り越えていかれますよう健闘を祈ります。

夏の代替大会の活躍

コロナ禍により甲子園大会が中止となるなかで開催された県独自の代替大会にのぞんだ野球部は、2年連続で決勝を戦う活躍を見せました。エースの常田君を中心に、打線も強力で順調に勝ち進み、準決勝で昨秋の県大会で優勝した上田西を3-2の接戦で破りました。8月10日(月)の決勝戦では佐久長聖に0-9で惜しくも敗れ、2年連続の県制覇はなりませんでしたが、準優勝の活躍を讃えたいと思います。

決勝戦を終え帰校する部員を乗せたマイクroバスが通過する市内の商店街では、大勢の市民の皆さんに沿道に出て声援をおくっていただき大変ありがとうございました。学校の正面玄関前で行われた報告会では、同窓会や野球部OB会関係者、同窓生や校内で学習していた生徒らが出迎えて、健闘した部員たちを祝福の言葉と大きな拍手で盛り上げていただきました。これからも常に甲子園を狙えるようなチームに成長して欲しいと願っています。

飯山全国高校スキー大会の成功と選手 の活躍を祈る

令和3年の2月6日から地元飯山で、第70回の全国高等学校スキー大会が開催されます。昨年は記録的な暖冬・少雪でしたが、今シーズンは12月から大雪で、1月も飯山らしい冬景色で、大会関係者の方々は、新型コロナウイルス感染症の影響を除けば、まずは、ほっとしていることと察します。

飯山高校のスキー部は、これまで男子が4年連続総合優勝、女子は2年連続準優勝を果たしており、地元開催の今年はアベック総合優勝が期待されます。高校生の活躍が地元で元気を与えてくれるよう願っています。
ガンバレ！飯山高校。

創立120周年記念事業準備委員会

昨年の5月に開催された代議員会で、2023年10月に「飯山高等学校創立120周年記念式典」を行うことに決定しました。2023年の3月末で、飯山中学校創立から120年、飯山南定時制創設から75年、飯山照丘高校創立から約50年、飯山高校創立から16年という節目の年を迎えます。かつて信州への新しい文化の伝播は千曲川をさかのぼって北から広がったという歴史もあります。これからも、北信地域のリーディング校として未来に向けて輝かしい発展を遂げていくよう記念事業を計画・実施して参りたいと思っておりますので、同窓会の皆様のご協力をお願いいたします。

なお、11月の役員・幹事会や12月の準備委員会総務部会で、記念事業のテーマ(案)「弗為胡成(未来へのレガシー創造)」や記念事業の骨子(案)が見えてきています。会員の皆様にもお伝えしながら、今後準備を進めて参りたいと思います。

最後に

昨年の11月下旬に、本会の顧問を務めていただいています大沼淳先生が、92歳でお亡くなりになりました。大沼先生は長年文学園の理事長を務められ、日本や世界のファッション界をリードし、有為な人材を輩出されてきました。飯山市の名誉市民でもあり、長年にわたって飯山市や母校の本校にご支援を賜りました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

昨年の3月には飯山高校卒業生の深谷君が東京大学に合格し、また、多くの卒業生がそれぞれの進路実現を果たしていききました。雪深き飯山ですが、高速道路や新幹線が通り、高校の校舎も統合を機に新たに建設され、SSHにも取り組む母校飯山高校の教育環境は、全国にも誇れる大変素晴らしいものです。これからも、志ある者が飯山に集い、切磋琢磨しながらこれからの世をリードしていく若者に育っていつて欲しいと願います。我が母校が新型コロナ感染症を乗り越え、未来に向かって躍進を続けるよう、卒業生一同、飯山高校の応援団として支えていきたいと思っておりますのでご協力をお願いいたします。

(令和3年1月)



ごあいさつ

令和2年度はコロナに始まりコロナに終わりそうでございます。また先日12月14日から20日まで飯山は大雪に見舞われました。皆様方如何お過ごしでしょうか。除雪作業等でお怪我は無かったですでしょうか。心配しております。ご健勝のことと存じます。

さて、過日私は、任期満了を持ちまして、飯山高等学校 同窓会桂雪会長の職を退任いたしました。任期中はたいへん皆様方からご指導・ご鞭撻をいただきお世話になりました。ここに厚く感謝と御礼のことをばを申しあげます。

振り返って見ますと

飯山地区の高等学校教育は、明治36年、後期中等教育の必要性と重要性を考えた当時の偉人たちが長野中学の分校として飯山中学を招致したことに始まります。飯山地区は他地区と比べて生活が豊かとは言えない中から浄財を出し合って自分の子どもに教育だけは受けさせたいという親の情熱が伝わってまいります。明治39年分校飯山中学は独立飯山中学校となりました。(図らずも同じ年、下高井農林学校が誕生しております。)大正10年女子教育の必要性から飯山女学校が誕生しております。昭和23年の教育改革で飯山中

飯山高等学校同窓会 桂雪会 前会長 関 保典(飯山南・定38年卒)

学校は、飯山北高校に飯山女学校は飯山南高校としてスタートいたしました。その時飯山南高校に働きながら学ぶ定時制が設置されました。その定時制に、豊井・永田・外様・常盤・太田・岡山の6分校が設置されました。その分校が統合を繰り返して昭和36年照丘分校となり、昭和49年照丘高校として独立いたしました。この背景には、一つの現実がありました。それは生徒数です。この地区には中学校が20ありました。豊井・永田・秋津・飯山・柳原・富倉・外様・常盤・太田・岡山・北信・東部・秋山・市川・野沢温泉・瑞穂・穂高・往郷・上木島・木島中学校です。その中学校卒業生数は1500人もいたのです。

この度の飯山高等学校の誕生

しかし、生徒数のピークを境に減少期に入りました。飯山北高の改築問題のからみから、県から飯山北高・飯山南高・飯山照丘高の3校の統合が提案され、平成19年飯山南と飯山照丘が第一次統合し平成26年飯山北高が二次統合して、飯山高校の誕生となりました。卒業生には、それぞれ懐かしい思い出があると思いますが、高校には適正規模という問題もあると思います。

最後に

令和元年、統合6年目にして野球部が、初の甲子園出場を成し遂げてくれました。その折、飯山地区の市町村はじめ・卒業生・関係各位の皆様方から一億六千万円という多額なご浄財をいただきました。「飯山高校がんばれ・飯山高校しつかりやれ」という声援と受け止め、ここから感謝と御礼を申し上げます。ありがとうございます。

これからは向寒の季節でございます。会員のみなさま方ご健康に留意され、本校を温かく見守っていただきたくご依頼を申し上げます。

(令和2年12月)





「コロナ禍に負けるな！頑張れ！飯高生！」（懸垂幕より）

校長 滝澤 崇

新年明けましておめでとうございます。桂雪会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、桂雪会の皆様には日頃から本校の教育活動に対して、並々ならぬご支援ご理解を賜り御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症対策に振り回された一年でした。197名の新入生を迎える入学式は行うことはできませんでしたが、4月10日より約2か月に及ぶ臨時休業となり、分散登校を経て6月1日から学校を再開することができました（この間に台風19号により被災したグラウンドの復旧工事が竣工しました）。2か月の休校期間中、自宅学習、オンラインでの教材配信等を行いました。例年並みの授業進度まで回復することは難しく、1学期の終業式を2週間遅らせて8月7日とし、夏休みも史上最短の2週間としました。

この間、運動系・文科系クラブの集大成（発表）の場である全国大会が中止となり、目標を突然失った3年生はさぞかし辛かったことと思います。代

替大会も、陸上、ソフトボールなどの幾つかのクラブにとどまり、大会が開けできなかったクラブの生徒も多くいました。そんな中、甲子園にはつながりませんが、野球部は県大会で2年連続決勝進出を果たし、飯山高校の名前を再び轟かせてくれました。とりわけ素晴らしい活動は、第5回飯高祭（オンラインフェス）です。年度当初の予定を変更し、7月28日29日の2日間（校内祭のみ）で開催しましたが、オンライン・リモート配信を駆使した構成で高校生の大きな可能性を見せてくれました。しかし、全国での新型コロナウイルスの感染は、第1波、第2波、第3波と終束することなく続き、2年生の台湾への研修旅行と1年生のサイエンスツアーは中止という苦渋の決断をいたしました。今まで当たり前だったことが当たり前でなくなり、生徒たちの教育活動の機会が減っていることに対して何か補填をしたいと思うのですが、イベント（人が集まる行事）的なものに安心・安全の保障をす

ることがなかなか難しい状況です。さて、11月21日、飯山北高校の同窓生であり本校の教育活動に大きな支援をいただけてきた、大沼淳先生が92歳で亡くなられたとの訃報を受けました。大沼先生は、文化学園の前理事長として日本・世界のファッションをリードされる一方で、北竜湖の文化施設・スキー場開設、木島の工業団地への企業誘致など、地元である飯山の振興にむけて行動されたことから、飯山市名誉市民の称号を受けられました。先生を偲び2013年の著書『ノブレスオブリージュの「こころ」』を読み返したところ以下の記述がありました。

『私が人生の中で最も大事にしていることは、人と人との出会いであり、触れ合いである。人間は、人と人との関わり合いがあつてこそ、はじめてその生を承らえることができる。人と人との関わり合いが、運命といったものを形成する。自分が人からされたくないことは人にしてはダメである。自分だけはやりたい放題やって、人がやるこ

とは許さないというようなことはダメなのだ。なぜなら自由主義というものはそういうものだから。』

これは、戦後間もない頃に大沼先生がお感じになったこととして書かれている部分ですが、75年後の新型コロナウイルスで閉塞感に支配されている現在にも通じる、人間の本質を捉えた言葉に思えて感銘を新たにしているところだと思います。改めて大沼先生にお悔やみ申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大は予断を許さないところではありますが、2021年2月6日から飯山市において、第70回全国高等学校スキー大会が開催されます。スローガンは「雪上の花、飯山の地で全ての思いをとき放て」であり、本校スキー部は地元での男女アベック総合優勝を目指して出場いたしますのでぜひ応援をお願いいたします。桂雪会の皆様には、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願いをするとともに、桂雪会がますます発展されることを祈念いたします。

冬季インターハイ特集

令和3年2月6日〜10日に飯山市中にて冬季インターハイが行われました。今大会は第70回という記念すべき節目の大会であり、選手たちは、故郷と母校の名誉にかけて、白熱した素晴らしい熱戦を繰り広げました。新型コロナ感染症対策としてさまざまな制限のかかる中で大会になりましたが、各種目で上位入賞を果たし、学校対抗では男子は5年連続総合優勝、女子は6年ぶり総合優勝を達成しました。男女アベック総合優勝は14年ぶりのことでした。数多くの声援ありがとうございました。

飯山インターハイの報告

2021飯山インターハイを振り返って
スキー部総監督 久保田 真一郎

皆さんもご存知の通りこの1年間は世界中が新型コロナウイルスの影響で、多くの制約が必要な新しい生活様式が求められ、今までと違う行動や対応が強いられています。そしてコロナ禍で多くの高校生が、活躍や発表の場、多くの仲間と交流する場を奪われるのを見てきました。

20年ぶりに飯山市で開催されるインターハイも開催が心配されました。野沢温泉で開催予定だった全国中学校スキー大会も中止となり、これは必然的にインターハイの開催も厳しいと思いがよぎりました。しかしそのような情勢の中、飯山インターハイが無事開催されたことに本当に心より感謝いたします。これは飯山市インターハイ実行委員会を中心に地元飯山市、高体連、地

元高校生のボランティアスタッフの皆様、高校生に活躍の場を準備したいという熱意があつてこそだと思います。各競技場では早朝の暗いうちから、もしくは作業工程の必要性から冷え込みを待ち暗くなつてからの作業であつたり、朝夕関係なく過酷なスケジュールで準備にあつていただいたことが飯山インターハイを無事に開催された大きな要因であつたことは言うまでもありません。開催にあたり関わつて頂いた全ての皆様に重ね重ね深く感謝いたします。本当にありがとうございます。

舞台が整つた以上、飯山高校スキー部の使命は、生徒たちが夏から目標にできた地元インターハイでの男女アベックで総合優勝です。ここ数年は男子が4連覇し、5連覇がかかつておりました。女子は力がありながらも2-3位に甘んじていましたが十分な力があり、悲願のアベック優勝はそう遠いものではなく、各選手が力を発揮すればついてくる結果と考え、各選手が実力を発揮することに集中しました。

2月7日インターハイ競技初日は、男子はスペシャルジャンプで小野沢泰雅(2年)が5位、矢口昂太(2年)が6位、山崎叶太郎(1年)が8位と3名の入賞者(得点対象は2名)を出し10点を獲得し5位でスタートしました。女子はクロスカントリーフリーで中島果歩(2年)が3位、竹内美琴(2年)が7位、山崎優風(1年)が8位(同着)で3名が入賞し14・5点を挙げ2位と好発進しました。

続く2月8日競技2日目は、男子はジャイアントスラロームで笹岡蒼空(2年)が4位、男子ノルディックコンビインドで山崎叶太郎(1年)が3位、小野沢泰雅(2年)

が4位、矢口昂太(2年)が9位に入賞し大量22点を積み上げ32点となり2日目で総合トップに立ちました。女子はクロスカントリークラシカルで中島果歩(2年)が昨年に続き2連覇を果たし、山崎優風(1年)が8位に入賞し14点を加算し30・5点でこの時点で女子もトップに立ちました。

2月9日競技3日目は、男子はクロスカントリークラシカルが行われ初日不本意な結果に終わった沓掛隼士(3年)が2位に入り9点を加算し総合得点41点で2位北海道・東海大札幌に14点の差をつけトップを維持し総合優勝の期待が高まりました。女子はスラロームで小嶋咲良(3年)が9位に入りこの時点で30・5点をあげ、2位新潟県・新井高校に13点差をつけ最終日を待たずに6年ぶりの総合優勝を一足先に決めました。

2月10日競技最終日。この日は男子スラロームと男女リレーが行われました。4連覇のかかった女子リレーは安定したレース運びで優勝を決め総合優勝に華を添えました。同じく4連覇のかかった男子リレーはアクシデントがありながら力を発揮し、なんと7位に食い込みました。男子スラロームでは笹岡蒼空(2年)が3位に入りさらに得点を積み上げ総合優勝5連覇、14年ぶりのアベック優勝を決めました。街中でも多くの方に祝福の言葉をいただき、皆さんに喜びを与えられたことを嬉しく思います。高校スキーではみんながこの舞台での活躍を夢見る本場に大きな大きな舞台です。選手たちが輝き、成長する姿を多く見ることができました。ありがとうございます。

一方このスキーインターハイで全種目にエントリーをしているのは飯山高校ぐらいだと

思います。以前、ある方に「飯山高校はインターハイで優勝することは当たり前なんだ」と言われたことがあります。ハツとしましたが、正直その通りだと思いましたが、もちろん簡単なことではありませんが、冒頭にも述べたように選手一人一人が力を発揮すれば総合優勝に一番近い高校が飯山高校です。これを当たり前にやることこそ、これから私たちが目指す目標かもしれません。

アルペンで3位・4位に入賞し活躍した笹岡選手は、インタビュに悔しさもにじませながら「インターハイはあくまで通過点」と語っています。今年度世界ジュニア選手権には4名が選出され2名が参加しています。現在飯山高校卒業生と現役生を含む5名がW杯の舞台で戦っています。2月末に開催されるスキー世界選手権には彼ら5名が出場するでしょう。来年の北京オリンピックへの出場も大いに期待できる選手たちです。

さらに1月にフィンランドで行われたコンバインドW杯では2016年飯山高校卒業の山本涼太選手(長野日野自動車)がチームスプリントで3位、翌日行われた個人戦でも3位と初の表彰台に立ちました。飯山南高校に体育科が設置され、世界を目指すためスキー部を設立し、初のW杯での個人でのメダル獲得となりました。まさにインターハイを通過点にさらに大きく成長した選手たちが活躍しております。一人一人がまだまだ無限大の「伸び代」を持つております。この伸び代を最大限に伸ばし、来年度はアベック優勝連覇の報告ができるよう頑張りたいと思います。今後も厳しくご支援ご声援をお願い申し上げます。飯山インターハイの報告とさせていただきます。

第70回全国高等学校スキー大会in飯山 大会結果

〈学校対抗〉

男子優勝 飯山高校
5年連続総合優勝！
女子優勝 飯山高校

〈アルペンスキー〉

男子 大回転
4位 笹岡 蒼空
46位 富井 涼雅
女子 大回転
21位 小嶋 咲良
26位 吉野 恵実

男子 回転
3位 笹岡 蒼空

女子 回転
9位 小嶋 咲良
36位 清水 優奈

〈クロスカントリースキー〉

男子 10kmフリー
12位 池田 遼一
23位 沓掛 隼士
29位 沼田 唯聖
48位 堀米 結丸

男子 10kmクラシカル
2位 沓掛 隼士
13位 沼田 唯聖
25位 小笠原 舜
54位 吉越 敬介

女子 5kmフリー
3位 中島 果歩
7位 竹内 美琴
8位 山崎 優風
26位 高橋 夢果

女子 5kmクラシカル
1位 中島 果歩
8位 山崎 優風
13位 高橋 夢果
32位 竹内 美琴

2連覇！

〈ジャンプコンバインド〉

男子 4×10kmリレー
7位 飯山(小笠原、沓掛、池田、沼田)
女子 3×5kmリレー
1位 飯山(中島、竹内、山崎)

男子 スペシャルジャンプ
5位 小野沢泰雅
6位 矢口 昂太
8位 山崎叶太郎

男子 ノルディックコンバインド
3位 山崎叶太郎
4位 小野沢泰雅
9位 矢口 昂太

女子 スペシャルジャンプ
4位 佐藤ひなた

女子 ノルディックコンバインド
1位 佐藤ひなた



インターハイに出場した選手たち



男子クラシカル 2位 沓掛隼士



男子 SL 3位 笹岡蒼空



男女総合優勝



男子コンバインド 3位 山崎叶太郎



女子クロスカントリー リレー優勝



女子クラシカル 優勝 中島果歩



出場できなかった選手も大会運営で活躍しました



飯山インターハイ記念として桂雪会より寄贈



激励会の様子
密を避けるため生徒は校舎の窓から拍手を送りました

コロナ禍の生徒会活動

旧生徒会長 前澤 慧
旧文化祭実行委員長 山崎 愛里

新型コロナウイルスが日本に上陸したのは2020年の2月ごろ。その時はここまで拡大するなんて思っていませんでした。3年生を送る会から始まり、卒業式、1年生を迎える会、そして生徒会活動の集大成である文化祭までもが規模縮小で行う事になりました。また、芸術鑑賞や春季クラスマッチも計4回の休校のため中止になってしまい、私たちの青春は奪われてしまったのです。

具体的には、2月に行った3年生を



送る会は時間短縮、各部活のステージ発表を動画に変更しました。3月に行った卒業式や4月に行った1年生を迎える会は、在校生の出席を禁止となりました。秋季クラスマッチは、体育委員会の試行錯誤の末、規模縮小ながら行い、楽しむことができました。生徒会長として少し物足りない、寂しいような気もしました。

その中でも一番大きな変更があり、一番生徒会役員の思い出に残っているものが文化祭です。例年通りの飯高祭は休校期間中に中止が決まりましたが、文化祭の代替イベントという案を先生方からもらいました。感染予防、休校による授業の遅れ、3年生の受験勉強などがあり、反対意見もありましたが、どうしても開催したい、コロナ禍でも思い出をつくりたいという生徒会役員の思いから、開催を決定することができました。

今年是一般公開はせず、クラス展示無しなど規模を大幅に縮小し、保護者や地域の方に来てもらうことはできませんでしたが、「飯高祭の伝統を絶やしたくない」「例年の飯高祭のように楽しんでほしい」という思いから、文化祭代替イベントを『第5回飯高祭』心の中心で密になろうと『というテーマのも行いました。

第5回飯高祭は体育館をメイン会場とし、そこから各種イベントを動画配信サイトを通じて各教室やインターネット上に配信しました。例年の文化祭のように体育館に全校生徒が集まって楽しむ、ということは感染予防のためできなかつたのですが、少しでも多くの生徒と楽しさを共有したいという思いがあり、人数を制限し、マスク着用、ソーシャルディスタンスを確保することを条件に、体育館での観覧も許可していただきました。マスク越しでも笑顔を見ることができ、文化祭をやつてよかつたと思心から思いました。

協力してくださった全校の皆さん、協力してくださった先生方、また、新しい形の文化祭で右も左も分からない状況の中、自分自身で考え、臨機応変に行動してくださった文化祭役員の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

今年の飯高祭も楽しく、心に残るものとなりましたが、やはりどこか寂しい気持ちがありました。それは、飯高祭が地域の方々が一番繋がる機会であるのに、一般公開ができなかつたからだと思います。今はどこにいてもインターネットで誰かと繋がることできますが、やはり直接会って同じ場所と同じ時間を共有するに越したことはないと感じました。そして、今まで当たり前のようにあつたもの、やつていたこと、できていたことがどれだけ大切で有り難いことだつたかを痛感しました。新型コロナウイルスにより友達と過ごす時間や、高校生である『今』しかできないことが奪われてしまいました。それが、それ以上にたくさんの方からいただくことができました。

切で有り難いことだつたかを痛感しました。新型コロナウイルスにより友達と過ごす時間や、高校生である『今』しかできないことが奪われてしまいました。それが、それ以上にたくさんの方からいただくことができました。

最後になりますが、このwithコロナというご時世で、ある意味いい思い出になつたと思われれます。改めまして、全校の皆さん、諸先生方には本当に感謝しています。本当にありがとうございます。

高校総体代替大会 県大会

ソフトボール 男子 優勝



祝・北信越大会出場

〈秋 新人戦〉

陸上

女子 ハンマー投げ・円盤投げ 小林朋子
女子 3000m 丸山夏乃

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの各種大会が中止になるなかでの部活動となりましたが、生徒たちは様々な制限の中でもひたむきな姿勢で競技に取り組むことができました。

◎6月1日（月）より通常授業再開に ～休校中は「新しい学びのスタイル」を模索～

新型コロナウイルス感染症対策のため4/10（金）から臨時休校措置がとられていましたが、5/19（火）より段階的に教育活動が再開されました。5/19（火）～22（金）の準備登校、5/25（月）からの分散登校を経て、「県立学校再開ガイドライン」にもとづき、6/1（月）からは約2か月ぶりに本来の形での授業が展開されることになりました。授業再開にともない、教室の教卓前に飛沫防止のビニルシートシールドが天井から下げられるなどの感染予防対策が取られました。

臨時休校期間中は、2度にわたり生徒一人ひとりにあてて通信類や課題等を発送し自宅での学習に対応する一方、授業の補助教材として動画を作成するなど、職員も緊急事態の対応に追われました。また、新たにグーグルクラスルーム（クラスや講座単位で生徒や学習内容を運営・管理でき、採点や質問投稿も可能なアプリ）を使用して、HR担任からの連絡や、授業動画や小テスト形式の課題等の配信も始まりました。

◎1・2年スポ科で野外実習

7/15（水）～17（金）、スポーツ科学科1・2年生の野外実習が行われました。新型コロナの影響で宿泊せずに北竜湖周辺・千曲川などで実習を行いました。1・2年共通でカヌー・SUP（スタンドアップパドルボート）・マウンテンバイク・パターゴルフの実習、さらに1年は飯盒炊飯・小菅奥社登山、2年はラフティング実習に取り組みました。天候が心配されましたが、すべての実習が予定通り行われました。



◎吹奏楽部が観客限定で定期演奏会

7/25（土）、文化交流館なちゅらで吹奏楽部の第5回定期演奏会が開催されました。新型コロナウイルスの影響で、観客は保護者のみに限定され、入場の際には体温測定をし、客席も間隔をあけるなどの感染予防対策を取って行われました。第1部は「鶯の舞うところ」などを重厚な雰囲気、第2部は「A・RA・SHI」「天気の子コレクション」などリズムカルで楽しい雰囲気での演奏でした。詰めかけた約120名の観客は約1時間にわたる飯高サウンドを満喫しました。



◎第5回飯高祭を校内祭で実施

第5回飯高祭が、7/28（火）午後～29（水）に規模を大幅に縮小し校内祭という形で実施されました。新型コロナウイルス感染防止のため通常開催（当初予定7/3～5）を断念し、合唱祭・クラス展・模擬店・パレマスなどの恒例企画も中止、執行部を中心に新たな企画や実施方法を練り上げてきました。当日は、メイン会場である体育館からのリモートによるライブ中継や録画による番組配信が行われ、HR教室やスマートフォンなどで視聴できるようにするなど、コロナ禍のなかで様々な工夫がとられました。校内では書道部・美術部などの作品展も行われました。



◎野球部、準優勝に輝く ～2年連続決勝進出の快挙～

新型コロナウイルス感染症拡大により甲子園大会が中止となるなかで開催された県独自の代替大会にのぞんだ野球部は、順調に勝ち進み、準決勝で昨秋の県大会で優勝した上田西を3-2の接戦で破りました。決勝戦では佐久長聖に0-9で惜しくも敗れ2年連続の県制覇はなりませんでしたが、見事に準優勝に輝きました。

8/10（月）、決勝戦を終え帰校する部員を乗せたマイクロバスが通過する市内の商店街には大勢の市民が沿道に出て声援をおくりました。学校の正面玄関前では、同窓会役員や野球部OB会関係者、校内で学習していた生徒ら約80人が出迎えて報告会が行われ、健闘した部員たちに祝福の言葉と大きな拍手が送られました。



◎若き研究者らとリモート交流

コロナ禍のなかでリモートを使って世界で活躍する若き研究者との対談が企画され、7月下旬～8月末にかけて5回実施されました。参加した生徒たちは、専門の研究に関する話を聞くだけでなく、事前事後に英語で書かれた論文を読むことなどにも取り組み、科学への興味関心を高めました。また、現在取り組んでいる課題研究計画を発表し、先生方からの助言をいただいたり、討論を行ったりしました。



◎小惑星探査機「はやぶさ」の共同研究者廣井先生によるリモート講演

10/1（木）、SSH 講演会が開催され、ブラウン大学（アメリカ・ロードアイランド州）の地球環境惑星科学科上級研究員廣井孝弘先生による、「はやぶさ・はやぶさ2と宇宙創成の秘密、そして、未来の科学による世界平和」と題した講演会が行われました。講演会はウェブ会議ツール「ZOOM」を活用し、廣井先生はアメリカの自宅からライブで講演をし、2・3年生はHR教室で、1年生は大講義室のスクリーンに映し出される映像を視聴しました。小惑星探査ミッション「はやぶさ」「かぐや」「はやぶさ2」の共同研究員である廣井先生は、隕石を調べることに人類の存在の秘密にかかわる大きな意義があるとして、隕石が宇宙のどこから来たのか突き止めるといった研究をされています。生徒たちは事前学習として「小惑星探査機はやぶさ」などの動画を視聴して講演会にのぞみ、研究内容を中心とした先生の話に熱心に聞き入っていました。



◎長野県学生科学賞に3研究が入賞

今年度長野県学生科学賞に本校3年の課題研究グループ2班が優良賞（4位/県内64研究）、自然科学部が奨励賞を受賞しました。惜しくも日本学生科学賞の中央審査（上位3研究）までは進みませんでした。入賞数は県内最多の快挙でした。上位入賞した研究は以下の通りです。

【優良賞】「栄村界地区におけるモバイル通信環境について」（浦野弘悠・黒岩理玖・中島龍樹・藤木智広）、
「ダンゴムシに記憶力はあるのか」（浦山鈴寧・齊藤成美・清水望未・仲條成葉・深堀彩華）

【奨励賞】「ISS 出没时间の色変化の原因を探る」（自然科学部：黒岩理玖・廣瀬智悠・曾根原颯樹）

【入選】「壁の表面形状と防音の関係」（徳竹亮真・中村龍音・本山雄大・坂東武蔵）、
「5000Hzと2000Hzの音が植物の生育に及ぼす影響」（高橋采花・市川和・高橋有沙・松本来果）

◎曇り空のもと、第37回強歩大会

10/9（金）、全校生徒が参加して第37回強歩大会が開かれました。台風の接近で開催が危ぶまれましたが、雨もなく予定通りに昇降口広場をスタート（新型コロナ対策として、男女各5グループに分かれ時差スタートでした）。第2グラウンドから千曲川左岸堤防を走り、柏尾橋を渡り、瑞穂地区を抜け、中央橋を渡り、城北グラウンドにゴールする約18kmのコース（男女同じ）に挑戦しました。

男子は中澤拓哉くん、女子は丸山夏乃さん（ともに2年）がトップでゴールイン。例年大人気だったPTAの方々による豚汁も今年は中止となりましたが、パンとドリンクが用意され、生徒たちはおいしそうにほおぼっていました。



◎1学年、自然観察フィールドワークを実施

10/21（水）、SSH事業の一環として、1年生が自然観察フィールドワークに出かけました。なべくら高原森の家で「トレッキング～樹齢300年ブナの巨木を求めて～」「古民家コース～暮らしと自然の繋がりを調べよう！～」「高原の池周辺散策～標高1000mの植生から」「施設周辺散策～秋のブナ林から学ぶ～」「鳥類調査～鳥類の種類と生育環境について調べよう！～」の5つのコース（20名程度のグループを構成）に分かれ、インストラクターの方々の指導を受けながら自然観察・調査を行いました。午後は草木染や炭火パン作りなどのアクティビティにも取り組みました。翌日は学校で持ち帰った調査データをグループごとにまとめて、プレゼンテーションを行いました。



◎信州サイエンスキャンプ 化学分野で優秀賞

12/19（土）に行われた信州サイエンスキャンプ「課題研究合同研修会兼全国高等学校総合文化祭県予選」に2年生から3グループが参加し、化学分野で優秀賞を受賞し北信越大会出場が決まりました。

◆化学分野…「最強のマスクを作る！」（上野幹太・浦野泰雅・大久保智詞・岡田悠矢）【優秀賞】＝北信越大会出場

◆生物分野…「植物の成長にエチレングスが及ぼす影響とその利用」（門脇勇二郎・佐藤瞬斗・樋口太我・本山駿和・山崎開聖・芳川賢祐）

◆その他分野…「飯山のオリジナルフレグランスを作る！」（岡田夏季・土屋美嘉）

創立120周年記念事業について

桂雪会事務局 渡辺 藤夫

令和2年度の桂雪会の総会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となり、替わりに代議員会で今年度の事業計画・予算案等が協議されました。この会議で「飯山高等学校創立120周年記念事業」についても協議され、左記の事柄が決定されました。

また、8月には役員・幹事会が開催され、準備委員会組織図や120周年記念事業内容の骨子が検討されました。記念事業の具体的な内容については、総務部会で検討し、各部会で担当事業について細部の検討と具体化を進め、準備委員会で検討承認していく手順が確認されました。この時期に新型コロナウイルス感染症拡大の2波が到来しており、会議はマスクをし、換気を行い、できるだけ席の距離を開けるようにして会議を行いました。ま

た、幹事の皆さんの初顔合わせということもあり、比較的若手の皆さんから前向きな心強いご意見をいただきました。12月には、総務部会が開催され、左記のような骨子案が検討されました。今後、検討を重ねながら具体的な計画を進めていきますので、皆様のご協力をお願いいたします。



(1) 事業名 『飯山高等学校創立120周年記念事業』

(参考) 2021年3月末時点で飯山中：1903年4月(118年)、下水内高女：1921年4月(98年)、飯南定時制：1948年4月(73年)、飯山照丘高：1974年4月(47年)、飯山高：2007年4月(14年、2014～7年)

(2) 実施日 令和5年(2023年)10月上～中旬

(3) 創立120周年記念事業準備委員会の組織

【委員長】桂雪会長

【副委員長】桂雪会副会長、PTA会長、校長

【委員】桂雪会幹事、PTA副会長、桂雪会支部長、校内幹事(教頭・事務長およびOB職員)

【部会組織】総務、式典・祝賀会、記念誌、事業、募金

(1) テーマ(案)

「弗為胡成 ～未来へのレガシー創造～」



(2) 事業内容(案)

- ① 記念式典・講演会
- ② 記念祝賀会会場「なちゅら」
- ③ 記念誌の刊行
- ④ スキー記念碑の設置とスキー部120年展
- ⑤ 野球部記念試合、甲子園出場の軌跡、記念植樹
- ⑥ SSHの歩みと未来展
 - (i) 合宿所のリフォームによる「地域・教育交流会館」の設置
 - (ii) 弓道場の外壁・内壁床の改修
 - (iii) 第2グラウンドのトイレ新設
 - (iv) 第2体育館照明のLED化
- ⑧ 第2校歌、第3校歌としての校歌復活
- ⑨ 新聞広告、テレビ番組
- ⑩ 記念グッズ・リーフレット・DVD作成

(3) 募金開始令和3年度総会后～ 目標額(案)

6,000万円

訃報 大沼淳顧問のご逝去について

桂雪会事務局 渡辺 藤夫

大沼淳顧問は、去る令和2年11月21日に、92年の生涯に幕を降ろされました。大沼先生は、昭和3年に飯山の上町でお生まれになり、昭和20年に飯山中学校を卒業され、海軍兵学校を経て、人事院の事務官となりました。昭和35年に文化学園(当時は並木学園)の理事長となり、世界的にもファッション教育の先駆的役割を果たしてこられ、数多くの有名デザイナーを輩出されました。

飯山市では、北竜湖周辺の観光開発に力を入れ、文化学園の学生が研修等でたくさん訪れ、地域の活性化にも多大な貢献を果たされました。母校へもたくさんのご支援をいただきました。飯山北高の百周年記念式典での講演や桂陰会の完会式でのビデオメッセージなど記憶に残っています。飯山中学1回生の美術家である佐藤武造さんの「ロンドンの校外」の絵画も寄贈していただき、応接室に飾ってあります。

桂陰会・桂雪会と長く顧問をつとめていただきました。告別式は11月30日(月)に青山の梅窓院で行われ、新型コロナウイルス感染症の感染が心配される中でしたが、これまでの御恩に感謝すべく、同窓会を代表して渡辺が上京し、お焼香をさせていただきました。

これまでのご支援に衷心より感謝申し上げます。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



令和2年度桂雪会役員

本会役員

顧問	池川 信夫
顧問	大沼 淳
顧問	岩崎 彌
顧問	猪瀬 清徳
顧問	森 司朗
顧問	関 保典
顧問	滝澤 崇
会長	宮本 衡司
副会長	内山 英樹
副会長	高橋 彰
副会長	瀧澤 俊實
副会長	太田 良夫
副会長	小嶋日出子
監事	箕口 徳夫
監事	平野 正幸

幹事

幹事長	上海 一徳
副幹事長	村石桂太郎
副幹事長	小橋 浩樹
副幹事長	湯本 直木
幹事	山崎 美典
幹事	大塚 正
幹事	新家 智裕
幹事	小田切 昇
幹事	藤巻 篤
幹事	藤本 智教
幹事	岡田 敬幸
幹事	川久保直市
幹事	吉越 利明
幹事	小山 巧
幹事	島田 和彦
幹事	澤木 伸一

飯山支部	支部長	上松 永林
	副支部長	横川 莊一
	副支部長	村石桂太郎
秋津支部	支部長	島田 和彦
	副支部長	森山 善司
	副支部長	丸山 朗
木島支部	支部長	関 藤夫
	副支部長	澤木 伸一
瑞穂支部	支部長	増山 保範
	副支部長	岩松 義雄
柳原支部	支部長	佐藤 正夫
	副支部長	木幡喜美子
外様支部	支部長	春日 早夫
	副支部長	春日 隆
常盤支部	支部長	平野 正幸
	副支部長	
太田支部	支部長	青木 彰
	副支部長	庚 繁樹
岡山支部	支部長	井沢 清一
	副支部長	田中 康一
木島平支部	支部長	瀧澤 俊實
	副支部長	池田 充栄
野沢温泉	支部長	平田 幸男
	副支部長	富井 裕昭
栄支部	支部長	森川 博
	副支部長	渡辺 要範
長野支部	支部長	武田 芳彦
	副支部長	瀧澤 国夫
須高支部	支部長	小林 守夫
	副支部長	大熊 文久
豊野支部	支部長	米木 善登
	副支部長	原田 茂
中野支部	支部長	
	副支部長	
豊田支部	支部長	吉岡 典高
	副支部長	小橋 浩樹
津南支部	支部長	島田 哲宏
	副支部長	
県外(5)		
東京関東支部	支部長	青井 富雄
	副支部長	高橋 彰
	副支部長	阿部 靖典
	会計	阿部 靖典

同窓会の皆様からのご支援により、本年度の環境整備の活動として校内各トイレに合計24台の洗浄便座を設置いたしました。既設のものをあわせ計32台となりました。生徒や職員、来校された方々に気持ちよく利用していただくために、日頃より清潔な状態を維持できるように努めていきたいと思

洗浄便座の増設



います。ご支援に感謝申し上げます。

学校関係

校長	滝澤 崇
教頭	倉田 慎司 120周年記念事業・スクールバス
事務長	浦野 幸夫 会計
幹事	渡辺 藤夫 事務局長・総務・広報 (HP) ・桂雪アカデミー・生徒助成・クラブ支援・120周年記念事業
幹事	宮澤 良裕 事務局次長・総務・桂雪会名簿改訂・教育環境整備・120周年記念事業
幹事	小林幸太郎 桂雪会名簿改訂・教育環境整備・マイクロバス
幹事	岩上 寿昭 桂雪会報・スクールバス
幹事	山崎 皓 桂雪会報・桂雪アカデミー・生徒助成・クラブ支援
幹事	関 洗輔 スクールバス